

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員と地域おこし協力隊員からお知らせします。

営農指導員の ワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 譲わかやま ゆずる

春夏野菜栽培の準備を しましょう!!

まもなく春夏野菜づくりが始まります。良品生産に向けて野菜畑の準備を行いましょう。

畑をきれいにしましょう

野菜作りの第一歩は、畑の清掃から始まります。雑草が生えていれば病原菌のすみかになったり、肥料分を奪ったりするのでまず除草しましょう。次に次作への病害虫の影響を軽くするため、野菜の残さを取り除き畑を清潔にしましょう。

植物がなくなった畑は厳寒期に深く耕し天地返し（下層の土を上）にします。これは冷気と日光にさらすことによって、土中に隠れている害虫の卵や幼虫、病気のもととなる雑菌を減らすためです。また固まった土壌をほぐして柔らかくする効果もあります。

作付の計画を立てましょう

1年間の畑の利用計画を立てましょう。野菜畑は、作付年数が増すほど生育障害が多くなります。生育障害の80パーセント以上が病害虫の発生による連作障害に起因

しています。連作障害を軽減するために、同じ作物を同じ場所で栽培することを避けましょう。そして、他の作物を組み合わせて、一定の順序で繰り返して栽培をする輪作を行いましょう。

土づくりを行いましょう

(1)養分供給のために

良質な野菜生産を続けるためには、土壌養分を適正に保つことが基本になります。化学肥料のみの肥培管理を続けると、土壌の物理的な性質や生物相（土壌の微生物活性）を維持することが難しくなるのが一般的な傾向です。有機物（完熟堆肥）の総合的な改善効果を期待して、有機物を施用する必要がある（1アール当たり200キログラム程度施用）。

(2)根張りを良くするために

作物が良く生育するためには、根が深く広く十分に張り、養水分が良好に吸収できる必要があります。作物の根が良く張るには、温度や養水分のほか土壌が膨軟である必要があります。そのために有機物の施用、深く耕すことが必要になります。

問い合わせ

農業振興課農業振興係

☎ 0824・73・1132

女性からはじめる 獣害対策

地域おこし協力隊 草谷 夏枝くさたに なつえ

アライグマとヌートリア対策

外来生物のアライグマとヌートリアの特徴をご存じですか。

アライグマは登るのが得意で凶暴。空家などに先に入出入りしていたテンやイタチなどを追い出して住み着いてしまうことがあります。またヌートリアは水辺に巣を作り、水路伝いに田や畑に侵入し、冬場のホウレンソウや白菜などが食害に遭うほか、水稲の苗も被害に遭います。見かけたら地域で繁殖する前に対策が必要です。

現在、この二種については、狩猟免許（わな猟免許）を持たない方でも、市が開催する講習を受けることで通年で捕獲することができま



▲アライグマ



▲ヌートリア

自分たちで捕獲できるのね！みんなに伝えなくちゃ！



動物ごとの対策があることを知り、「早期対策」の知識を持ちましょう。

女性限定講習会振り返り② キーワードは「餌付け」

女性限定防除の講習会では、大屋本谷「楽しい畑」の山根伊都子さんと本村サロンプラミッド「みんなの畑」の森田千代美さんが取り組みの事例発表をしてくださいました。その中で、お二人の共通したキーワードは「餌付け」。このコーナーでも紹介してきましたが、草刈り後の青草も動物のエサとなっていることを知らないまま対策をしても効果は上がりません。

「山にジャガイモが捨ててあるのを見たとき、以前は『小さな芋は畑に捨てると芽が出て厄介なので、畑の外に捨てているのだから』と思っていた。でも、ジャガイモが被害に遭って獣害対策を勉強すると『あれが餌付けになってしまっていた』と分かった。集落みんなで残菜などを動物に食べられるような状態で捨てないように改善したところ、今では効果を感じてくらしい動物が出てこなくなった」。共同畑を通じて対策の知識が広まり、実践した結果ですね。どのように広まったかは、次号でお知らせします。

問い合わせ

林業振興課林業振興係

☎ 0824・73・1124